

不要プリント資源化へ

家庭に保管袋、回収

二本松と本宮、大玉の2市1村のごみ処理業務などを担う安達地方広域行政組合は本年度、小中学生が使い終えて不要になったプリントの資源化に乗り出す。一般的に焼却処分されることの多いプリントを専用の袋に入れて組合側が回収し、再生紙の資源にしたい考え。県民1人が出す1日当たりのごみの量が全国ワースト2位(2023年度)となる中、取り組みに注目が集まりそうだ。

安達地方広域行政組合 可燃ごみの分析結果 (3月10日採取)



※四捨五入したため合計が100%にならない



ごみ排出量が高止まりしている本県。安達地方広域行政組合によると、可燃ごみの半数近くを紙・布類が占めるという
＝本宮市・もとみやクリーンセンター

安達広域行政組合

安達地方広域行政組合によると、プリントは「雑がみ」に分類され、リサイクルが可能なが、可燃ごみの中に含まれることが多い。でも、みよやクリーンセンター(本宮市)で年4回実施する可燃ごみの組成分析では「紙・布類」が4割以上を占めるという。また社会科見学で同センターを訪れる小学校のほとんどがプリントの回収につなげたい考えだ。

回収の推進に向けて同組合は7月以降、各市町村教委を通して、管内の小中学生約7千人に雑がみ保管袋を配る予定。その後は各家庭で雑がみを保管袋にプリントを保管し、たまった時点で中身を資源として出してもらう。回収方法については、各家庭が地域の「資源(み)」の日に雑がみを出し、組合が回収する方向で調整している。

同組合は出前講座や社会科見学でプリントなどの資源化を呼びかけるほか、学

県、減量事業に補助創設 本年度

県は本年度、ごみの減量や資源化促進事業を展開する自治体、一部事務組合を2500万円を補助する。県がごみの減量や資源化に呼びかける自治体、団体を支援したい(一般廃棄物新規事業のほか、本年度

不要プリントの資源化に乗り出したのは、どのような実態からですか？

不要プリントは、どのような方法で回収される予定ですか？

ゴミの減量化や資源化について、ネットなどで調べ、家庭でできることをまとめてみましょう。